

第46回宮崎県スポーツ学会 プログラム

日時：平成24年3月3日（土）15:00～19:00

場所：宮日ホール（宮日会館11階）

〒880-0812 宮崎市高千穂通1-1-33

会長：帖佐悦男

参加者へのお知らせ ※14:30～受付

非会員 参加費

医師	1,000円
コメディカル・一般	500円
学生	無料

*入会申込も当日受付にて承ります。

会員 年会費・参加費

医師	2,000円
コメディカル	1,000円
施設会員	無料（施設会員費に含）

宮崎県スポーツ学会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎市清武町木原5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ学会・ファイザー株式会社

後援：宮崎県医師会

演者へのお知らせ

■口演時間；一般演題 1 題 6 分、討論 3 分

■発表方法

発表形式はPC(パソコン)のみとなっておりますのであらかじめ御了承ください。

- (1). PC は事務局で用意します。持ち込みはできません。
- (2). 事前に動作確認を致しますので、データはCD-R (RW) に作成していただき、
2 月 23 日 (木) 必着で事務局までお送りください。

■CD-R(RW)作成規定

- (1). 発表データの形式は Microsoft Power Point Windows 版 (2003・2007 版のいずれか) に限ります。
- (2). 発表データのフォントについては、標準で装備されているもの (MS 明朝、MS ゴシック、MSP 明朝、MSP ゴシック等) を使用してください。
- (3). CD-R(RW)のケース表面およびCDラベル面に以下①～③を明記してください。
①筆頭演者名 ②所属 ③演題番号 *CDは当日受付にて返却致します。

世話人会のお知らせ

14:20～14:50 宮日会館 第2会議室 (10階)

特別講演のお知らせ

18:00～19:00

『スポーツ外傷としての半月板損傷の治療』

医療法人社団 善衆会 善衆会病院

理事長・病院長 木村 雅史 先生

註 上記特別講演は、次の単位として認定されています。

- 日本整形外科学会教育研修会 (専門医またはスポーツ医) 資格継続単位 1 単位
※必須分野 [02 外傷性疾患 (スポーツ障害を含む)、12 膝・足関節・足疾患]
※認定番号: 11-2626-00 ※受講料: 1,000 円
- 日本医師会生涯教育講座 1 単位: 無料 ●健康スポーツ医学再研修会 1 単位: 無料
- 運動器リハビリテーションセラピスト: 認定証番号を記入頂きます。※受講料 1000 円
- 健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義 2 単位が認められます。(認定番号 116588) 健康運動指導士証/健康運動実践指導者証を受講終了後受付に提出して下さい。証明書に押印します。 ※受講料: 500 円

■ 15:00～ 開会

□ 15:00～ 一般演題Ⅰ 座長 鶴田 来美

1. カヌー動作におけるパドリング時の動作解析-動作解析システムの開発 第1報-
宮崎大学医学部 濱野 友生、ほか
2. 中高年者の体力・体格とロコモティブシンドローム
宮崎大学医学部看護学科 蒲原 真澄、ほか
3. 宮崎大学医学部附属病院における「院内認定健康スポーツナース」の取り組み
宮崎大学医学部附属病院看護部 吉本 純子、ほか

□ 15:30～ 一般演題Ⅱ 座長 三原 成人

4. 中学サッカー選手におけるスポーツ傷害の学年別の特徴とメディカルサポート
野崎東病院 菅原 康史、ほか
5. 高校女子選手の競技別身体特性の検討～テニス VS バスケット・カヌー～
宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 塚本 信也、ほか
6. 加速度センサーを用いた柔道での受け身動作の解析
宮崎大学医学部 整形外科 黒木 修司、ほか
7. 宮崎県におけるトレーナー活動と人材育成について
野崎東病院 尾崎 勝博、ほか

■ 16:10～16:20 総会

— 休憩 —

□ 16:25～ 一般演題Ⅲ 座長 山口 奈美

8. マウスガードがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響
—マウスフォームドタイプとカスタムメイドタイプの比較—
宮崎大学医学部感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野 吉岡 泉、ほか
9. 投球障害肩術後に運動連鎖を考慮した理学療法アプローチが有効であった一症例
野崎東病院リハビリテーション部 大山 史朗、ほか
10. 柔道選手に発生した恥骨疲労骨折の1例
串間市民病院 整形外科 川添 浩史、ほか
11. Freiberg 病の観血的治療経験 藤元早鈴病院 整形外科 園田 典生、ほか
12. 当科における10年間の半月単独処置症例についての検討
宮崎大学医学部 整形外科 梅崎 哲矢、ほか

□ 17:20～17:50 ミニレクチャー 座長 年森 啓隆

「初期救急救命処置」 宮崎産業保健推進センター所長 小岩屋 靖 先生

— 休憩 —

■ 18:00～19:00 特別講演 座長 帖佐 悦男

「スポーツ外傷としての半月板損傷の治療」

医療法人社団 善衆会 善衆会病院
理事長・病院長 木村 雅史 先生

1. カヌー動作におけるパドリング時の動作解析-動作解析システム
の開発 第1報-

宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 ○濱野友生 (はまの ともお) 宮崎茂明
宮崎大学医学部 整形外科 帖佐悦男
宮崎大学工学部 機械システム工学科 川末紀功仁 小中野将士 青木博正
宮崎大学工学部 教育研究支援技術センター 田ノ上二郎 長友敏

我々は第44回宮崎県スポーツ学会において、カヌー競技のパドリング動作(カヤック)では回旋を主とした動作にて前方への推進力を生み出していることを、光学式3次元動作分析装置を使用しエルゴメーター上でのパドリング動作を解析する方法にて報告した。しかしこの方法では潮の流れや風の影響を受けておらず、実際の競技環境におけるパドリング動作を反映しているとは言えない。そこで今回、実際の河川において測定可能な動作解析システムの開発を試みたので報告する。測定には防水のCCDカメラを使用し、船艇に8台のカメラを設置して実施した。検討項目は実際の河川においてトップスピードとなった時点でのパドリング動作とした。解析方法はカメラ座標に対し実座標(x, y, z)を取得し、独自に開発した解析ソフトにて、骨盤(前後傾、側方傾斜、内外旋)角度を算出した。

発表では、この動作解析システムの現状と課題を踏まえ、今後の展望について述べたい。

2. 中高年者の体力・体格とロコモティブシンドローム

宮崎大学医学部看護学科 ○蒲原真澄 (かもはら ますみ) 鶴田来美
長谷川珠代 塩満智子

総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)における40歳以上の参加者を対象に、体力(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、閉眼・開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行)・体格(BMI)とロコモティブシンドローム(以下、ロコモ)との関連をみた。調査期間は、平成21年10月から平成22年5月までとした。対象は245名(男性64名、女性181名)で、40~64歳107名(43.7%)、65歳以上138名(56.3%)で、年齢の平均±標準偏差は64.0±10.4歳であった。7項目のロコモチェックの結果、ロコモ疑い有は67名(27.3%)であり、年代別にみると40~64歳13名(12.1%)、65歳以上54名(39.1%)であった。体力とロコモとの関連では、65歳以上を対象とした10m障害物歩行と6分間歩行の項目において、ロコモ疑い有の人が疑い無の人に比べて評価得点が有意に低かった。また、体格とロコモとの関連では、ロコモ疑い有の人は疑い無の人に比べてBMIが有意に高かった。

3. 宮崎大学医学部附属病院における「院内認定健康スポーツナース」の取り組み

宮崎大学医学部附属病院看護部 ○吉本純子（よしもと じゅんこ）原口尚子
塩月美香 藤浦まなみ 水永豊子
日高真美子
宮崎大学医学部整形外科 帖佐悦男

平成 21 年度から「院内認定健康スポーツナース」の養成を開始した。養成プログラム研修全ての受講と運動器検診の参加を終了し、認定委員会が行う試験に合格後、平成 23 年 3 月宮崎大学医学部附属病院における「院内認定健康スポーツナース」1 期生として 9 名が認定された。認定後の主な取り組みは、毎月 1 回定例会を開催し、運動器についての学習の継続と「院内認定健康スポーツナース」としての活動計画や実施後の評価を検討している。また、運動器検診やスポーツイベントにおける帯同、養成研修のアシスタントとしても活動している。定例会では、①スポーツイベントにおける救護活動や運動器検診での情報交換②運動器検診における手引の作成③院内において、ロコモティブシンドローム予防や転倒防止策などに取り組むための検討④活動状況や取り組みを紹介するためのホームページの作成を行っている。

今後は、運動器検診やスポーツイベントでの活動を継続するとともに、現在検討している院内でのロコモティブシンドローム予防や転倒防止策などの取り組みを推進していくことが課題である。

一般演題Ⅱ（15：30～）

座長 三原 成人

4. 中学サッカー選手におけるスポーツ傷害の学年別の特徴とメディカルサポート

野崎東病院 ○菅原康史（すがわら こうじ）尾崎勝博
大山史朗 田島直也

【目的】今回、一中学校サッカー部における傷害発生状況を調査したので、その結果を踏まえ今後のメディカルサポート内容について報告する。

【方法】

対象；宮崎市内中学校サッカー部、平成 21～22 年度に在籍した 64 名の内 37 名が対象

※1 週間以上の治療・安静を要した傷害

方法；アンケート調査

調査項目；2 年間の 1)傷害総数(外傷・障害含む) 2)学年別 3)発生部位 4)受傷機転

【結果】1)傷害総数；外傷 79%，障害 21%

2)学年別；3 年生が外傷 93%、障害 7%、1 年生は外傷 71%、障害 29%

3)発生部位；3 年生は上肢 34%，下肢 33%、1 年生は下肢 87%で上肢 0%

4)受傷機転；3 年生コンタクト 78%，ノンコンタクト 22%，1 年生コンタクト 60%，ノンコンタクト 40%

3 年生と 1 年生では相反的な結果となった。

【考察】近年育成年代に対してのトレーニング指導が従来より変遷していることが報告されている。今回の調査でも 3 年生と 1 年生では傷害の特徴が異なる傾向が見られた為、今後は学年を考慮した対応が必要と思われた。

5. 高校女子選手の競技別身体特性の検討 ～テニス VS バスケット・カヌー～

宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 ○塚本信也（つかもと しんや） 渡辺将成
宮崎茂明 鳥取部光司
宮崎大学医学部整形外科 山本恵太郎 河原勝博 田島卓也
山口奈美 帖佐悦男

- 【はじめに】宮崎県では競技力向上を目指し強化指定競技に対し、メディカルチェックを実施している。今回、本年度の高校総体で準優勝した女子テニス選手とカヌー・バスケットボール(以下バスケ)選手との身体特性の違いについて比較検討を行った。
- 【対象と方法】対象はテニス選手 10 名、バスケ選手 23 名およびカヌー選手 12 名とした。測定項目は身体組成・タイトネス・関節弛緩性、パフォーマンステスト（体幹・下肢の筋力・無酸素パワー・背筋力・ステップングテスト）とした。
- 【結果】テニス選手はバスケ選手と比べ、体幹筋力・無酸素パワー・背筋力で有意に低かった。また、カヌー選手と比べ無酸素パワー・背筋力で有意に低く、ステップングテストの左右・前方で有意に高かった。
- 【考察】テニス選手は他の競技に比べ俊敏性に優れており、競技特性を考えると跳躍力よりも素早いフットワークが必要な俊敏性が重要と考えられた。今後の成績向上のためには俊敏性以外にも瞬発力及び体幹筋力等も重要な要素であり、これらの強化も重要であると推察された。

6. 加速度センサーを用いた柔道での受け身動作の解析

宮崎大学医学部 整形外科 ○黒木修司（くろぎ しゅうじ） 関本朝久
船元太郎 帖佐悦男

- 【目的】近年、柔道練習中の事故による死亡や重度障害の発生が報道され、その安全性が注目されている。また平成 24 年度からは中学生の体育授業で武道必修化が導入され、重大事故発生の増加が懸念される。今回、受け身動作の解析を行い、柔道事故防止の可能性を検討した。
- 【対象および方法】(対象)中学生男子で、経験年数 3 年以上の柔道経験者 7 人および学校体育のみの柔道未経験者 15 人とした。(方法)3 軸加速度および角速度が測定できる無線センサーを用いて、蹲踞姿勢から後ろ受け身を行い加速度・角速度変化を測定した。また頸部筋力や身体的特徴と頭部最大加速度との関連性について検討した。
- 【結果】経験者群に比べ未経験者群では受け身動作時の頭部最大加速度が有意に高かった。
- 【考察および結論】 加速度センサーによる受け身動作の解析は、安全な受け身動作の解明に有効な手段であると考えられた。

7. 宮崎県におけるトレーナー活動と人材育成について

一般財団法人弘潤会 野崎東病院・財団法人宮崎県体育協会 スポーツ医科学委員会
○尾崎勝博（おざき かつひろ） 田島直也

宮崎県ではスポーツキャンプの受入など、県が掲げる「スポーツランドみやざき」構想や国民体育大会の成績不振などの背景を受け、様々な医療関係団体によるサポート活動が行われている。我々は、平成20年に宮崎県理学療法士会（以下；県士会）スポーツ健康増進部会の事業として、「みやざきトレーナーズセミナー」を設立した。その大きな目的は、宮崎県の地域スポーツ活動に貢献できるトレーナーの育成にある。2年間のセミナーと検定会を実施し、平成23年5月には19名の県士会認定トレーナーが誕生した。現在、日本体育協会公認アスレティックトレーナー指導の下、スポーツ現場での研修や活動を実施している。

ところで、トレーナーの基礎資格は、理学療法士以外にも柔道整復師や鍼灸マッサージ師など多岐にわたるが、各々の専門家が互いの技術を提供し合い、共通言語を持つことでよりよいメディカルサポート体制の構築が可能になるのではと考える。現在、これを実現するために宮崎県体育協会（以下；県体協）では、独自のトレーナー養成制度を立案し、準備を進めている。発表では、宮崎県のトレーナー活動の現状と課題を踏まえ、県体協認定トレーナー養成講習会について述べる。

総会 (16:10～)

■□■ 休 憩 ■□■

8. マウスガードがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響

ーマウスフォームドタイプとカスタムメイドタイプの比較ー

宮崎大学医学部感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野

○吉岡泉 (よしおか いずみ) 井川加織 高森晃一 永田順子 鹿嶋光司 迫田隅男

顎顔面領域に発生するスポーツ外傷の予防策としてマウスガードが普及し、その有用性が報告されている。マウスガードは使用感に優れ、スポーツパフォーマンスの低下をきたさないことが、重要な具備条件の一つと考えられる。

主に普及しているマウスガードは、温水に漬けて軟化したものを口腔内に噛んで成形するマウスフォームドタイプと、個々に印象採得し、歯列模型上で製作するカスタムメイドタイプがある。今回われわれはマウスフォームドタイプとカスタムメイドタイプでのマウスガードの違いが、その使用感とスポーツパフォーマンスにどのような影響を与えるかを明らかにするために以下の検討を行った。対象は男性ボランティアとし、使用感(見た目、呼吸のしやすさ、発音のしやすさ、臭い、味、異物感、かみ合わせの安定性)についてアンケート調査を行った。また握力と背筋力について、マウスフォームドタイプとカスタムメイドタイプの比較を行った。

9. 投球障害肩術後に運動連鎖を考慮した理学療法アプローチが有効であった一症例

一般財団法人弘潤会 野崎東病院リハビリテーション部 ○大山史朗 (おおやま ふみあき)
同整形外科 田島直也 井上篤 尾崎勝博

【症例】20歳代，男性．大学硬式野球部投手，右投げ．診断名；肩甲上神経麻痺，関節唇損傷．現病歴；平成20年，投球時に右肩痛が出現し，その後2度の手術療法を施行．術後3週間の外固定後に理学療法開始．

【問題点，理学療法アプローチ】#1 肩関節後方構成体タイトネスによる肩甲上腕関節ROM制限．#2 肩甲上神経障害による棘下筋，棘上筋萎縮および筋力低下．#3 肩甲骨周囲筋力低下．肩甲骨周囲筋および回旋筋腱板の機能低下により，肩甲骨関節窩に対して上腕骨頭が求心位を保持できていないと推察された．そこで，上腕骨頭の求心位保持および上腕骨-肩甲骨-脊柱-股関節の連動を目的とした運動療法を実施した．

【結果，考察】ROM；外転 100° → 160° ，第2肢位内旋 0° → 40° ，外旋 70° → 90° ．MMT；外転3→5，内旋3→5，外旋3→4．術後4ヶ月でキャッチボール，5ヶ月で全力投球が可能なレベルまで改善し，先行研究と同等な結果が得られた．投球障害からの復帰，再発予防のために，投球動作各位相のバイオメカニクスや運動連鎖を考慮した理学療法アプローチが必要である．

10. 柔道選手に発生した恥骨疲労骨折の1例

串間市民病院 ○川添浩史 (かわそえ ひろし) 深野木快士

スポーツ選手に対する日常診療を行う中で、疲労骨折はしばしば経験するが、恥骨疲労骨折は比較的数量が少ない。今回柔道選手に発生した恥骨疲労骨折を経験したので文献的考察を加え報告する。症例、16歳男子 柔道練習中に股関節周囲に痛みがあり踏ん張りが効かず、技がかけにくいという事を主訴に受診。初診時レントゲンでははっきりした骨傷はみられなかったが歩行時の鼠径部痛、患側、片側立位時鼠径部痛、恥骨部の圧痛があるためMR施行し、診断を確定した。以後安静を指示し保存的に加療を行った。一時通院の自己中断により症状を再発させてしまったが、通院再開後は本人の意識も高まり、初診から6ヶ月後完全に柔道に復帰した。

11. Freiberg 病の観血的治療経験

藤元早鈴病院 整形外科 ○園田典生 (そのだ のりお) 田邊龍樹 吉川大輔
宮崎大学 整形外科 帖佐 悦男

ハンドボール部に所属する中学生男子の Freiberg 病症例に対して骨切り術を行い比較的早期に競技復帰が可能であったので文献的報告を加え報告する。症例は13歳男子でH21年9月より特に誘引なく左前足部痛を自覚するようになった。症状が持続するために近医受診後、H22年1月に当科を紹介受診となった。前医で処方されたインソール装着し杖歩行・運動禁止としたが2月再診時に症状改善なく手術希望あり3月30日手術施行した。術後6週でランニング開始しその10週で痛みなく競技復帰可能となった。その後も症状なくX線でも骨頭修復像認めH22年12月に抜釘を行った。本疾患は成長期の女子に多く発症する中足骨頭の無腐性壊死が病態でありその多くはスポーツ歴を有するため成長期スポーツ障害の1つと考えられる。また進行すれば骨頭に変形、関節症が生じるため保存療法では骨頭修復確認まで長期を要しその間のスポーツ活動が制限される。今回我々が施行した骨切り術はスポーツ活動の早期復帰を望まれる症例に対しては適応を選べば良い治療法と考えられる。

1 2. 当科における 10 年間の半月単独処置症例についての検討

宮崎大学医学部 整形外科 ○梅崎哲矢 (うめざき てつや) 山本恵太郎
田島卓也 山口奈美 矢野浩明 石田康行
大田智美 山口志保子 帖佐悦男

2001 年 1 月～2010 年 12 月までに当科で施行した膝関節鏡視下手術症例 682 膝のうち、靭帯再建・骨軟骨接合術併用例を除く、半月損傷例 155 例 175 膝を検討した。そのうち半月縫合術は 27 例 28 膝 (男性 15 例 15 膝、女性 12 例 13 膝)、部分切除もしくは亜全摘術は 87 例 92 膝 (男性 55 例 59 膝、女性 32 例 33 膝) であり、ラスピングのみ施行した症例は 1 例 1 膝 (男性) であった。また、円板状半月は 40 例 54 膝 (男性 17 例 21 膝、女性 23 例 33 膝) であった。平均年齢は、縫合 22.5 歳、切除 40.2 歳、ラスピング 30.0 歳で、円板状半月は 26.0 歳であった。内外側半月の内訳は切除例が内側 63 膝、外側 40 膝であり、縫合例が内側 12 膝、外側 16 膝であった。これらに対し、断裂形態、術前術後の Lysholm・JOA スコアおよび術後経過について調査検討したので報告する。

ミニレクチャー (17:20～)

座長 年森 啓隆

初期救急救命処置

宮崎産業保健推進センター 所長 小岩屋 靖

今、あなたのまえで人が倒れました。ビクともしません。呼吸もしていないようです。今、あなたの助けが必要です。もう 1 度、学生に戻って「初期救急救命処置」をやってみましょう。

■□■ 休 憩 ■□■

特別講演 (18:00～19:00)

座長 帖佐 悦男

「スポーツ外傷としての半月板損傷の治療」

医療法人社団 善衆会 善衆会病院
理事長・病院長 木村 雅史 先生

閉 会

第 47 回宮崎県スポーツ学会 プ ロ グ ラ ム

日 時：平成 24 年 10 月 13 日（土）15:00～18:30

場 所：宮日会館 宮日ホール(11 階)

宮崎市高千穂通 1-1-33 TEL 0985-26-5558

会 長：帖佐 悦男

※14:30～ 受付開始

非会員 参加費

医 師	1,000 円
コメディカル・一般	500 円
学 生	無 料

会員 年会費・参加費

医 師	2,000 円
コメディカル	1,000 円
施設会員	無料（施設会員費に含）

世話人会のお知らせ

14:30～14:50

第 2 ホール（9 階）

宮崎県スポーツ学会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200

TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ学会・宮崎県整形外科医会・久光製薬株式会社

15:00開 会

▶15:00～16:00 特別講演Ⅰ 座長：野崎東病院 尾崎勝博
「競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションの実際」
国際武道大学 体育学部スポーツトレーナー学科
教授 山本 利春 先生

▶16:10～17:10 特別講演Ⅱ 座長：宮崎江南病院 山本恵太郎
「スポーツ傷害予防の研究方法与新たな展開：スポーツ現場ですべきこと」
大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学
講師 中田 研 先生

17:10～17:20 -総会-

▶17:30～18:30 特別講演Ⅲ 座長：宮崎大学整形外科 帖佐悦男
「スポーツでの頭部外傷—知っておいてほしいこと—」
東京慈恵会医科大学 脳神経外科
教授 谷 諭 先生

19:00 閉 会

【特別講演Ⅰ～Ⅲ 認定単位】

- ◆日本整形外科学会教育研修会 受講料は各1,000円。
3単位認定（専門医またはスポーツ医／運動器リハビリテーション医）
※認定番号 Ⅰ：12-1667-01 必須分野 [13 02] / 運動器リハビリテーション医
Ⅱ：12-1667-02 " [01 02] / スポーツ医
Ⅲ：12-1667-03 " [02 14] / スポーツ医
- ◆日本医師会生涯教育講座：3単位認定 受講料は無料
- ◆健康スポーツ医学再研修会：3単位認定 受講料は無料
- ◇運動器リハビリテーションセラピスト：認定証番号を記入頂きます。※受講料1000円
- ◇健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義2単位が認められます。（認定番号126485）健康運動指導士証/健康運動実践指導者証を受講終了後受付に提出して下さい。証明書に押印します。受講料は500円

第 48 回宮崎県スポーツ学会 プログラム

日 時：平成 25 年 2 月 2 日（土）15:00～19:00

場 所：宮崎大学医学部 臨床講義室 205 号

〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200

会 長：帖佐 悦男

参加者へのお知らせ

※14:30～受付

非会員 参加費

医 師	1,000 円
コメディカル・一般	500 円
学 生	無 料

会員 年会費・参加費

医 師	2,000 円
コメディカル	1,000 円
施設会員	無料（施設会員費に含）

*入会申込も当日受付にて承ります。

宮崎県スポーツ学会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ学会・宮崎県整形外科医会・久光製薬株式会社

後援：宮崎県医師会

演者へのお知らせ

■口演時間；一般演題 1 題 6 分、討論 4 分

■発表方法

発表形式は PC (パソコン) のみとなっておりますのであらかじめ御了承ください。

- (1). PC は事務局で用意します。持ち込みはできません。
- (2). 事前に動作確認を致しますので、データはメールでお送り頂くか、CD-R (RW) または USB フラッシュメモリに作成して頂き、1月24日(木) 必着で事務局までお送りください。

■CD-R (RW) 作成規定

- (1). 発表データの形式は Microsoft Power Point Windows 版 (2003・2007・2010 版のいずれか) に限ります。
- (2). 発表データのフォントについては、標準で装備されているものを使用してください。

世話人会のお知らせ

14:20~14:50 宮崎大学医学部新管理棟 2 階 ミーティングルーム

特別講演のお知らせ

18:00~19:00

『足関節・足部のスポーツ傷害 ～関節鏡視下手術例を中心に～』
奈良県立奈良病院 副院長 杉本 和也 先生

註 上記特別講演は、次の単位として認定されています。

- 日本整形外科学会教育研修会 (専門医またはスポーツ医) 資格継続単位 1 単位
※必須分野 [02 外傷性疾患 (スポーツ障害を含む)、12 膝・足関節・足疾患]
※認定番号: 12-2813-00 ※受講料: 1,000 円
- 日本医師会生涯教育講座 1 単位: 無料 ●健康スポーツ医学再研修会 1 単位: 無料
- 運動器リハビリテーションセラピスト: 認定証番号を記入頂きます。※受講料 1000 円
- 健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義
2 単位が認められます。(認定番号 126687) 健康運動指導士証/健康運動実践指導者証を受講終了後受付に提出して下さい。証明書に押印します。 ※受講料: 1000 円 (1 単位 500 円)



※駐車場は来院者専用駐車場をご利用下さい。
駐車場入り口にて発券される駐車券は、受付にお持ち下さい。
無料処理を致します。

来院者専用駐車場

■ 15:00～開会・会長挨拶

□ 15:10～

一般演題 I

座長 宮崎 茂明

1. 全国高校ラグビー大会県代表チームへのメディカルサポート
野崎東病院 アスレティックリハビリテーションセンター 吉行 聡美、ほか
2. 中学生女子バスケットボール部へのコンディショニング指導について
～アシスタントコーチ、理学療法士の立場から～
橘病院 整形外科 リハビリテーション科 豊永 梨紗、ほか
3. 高校女子テニス選手のメディカルチェックにおける身体特性の検討
宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 塚本 信也、ほか
4. 宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル来場者のロコモと転倒リスクの実態
宮崎大学医学部看護学科 蒲原 真澄、ほか
5. ロコモ予防教室継続者の特徴と看護職による支援の検討
宮崎大学医学部看護学科 塩満 智子、ほか

— 休憩 — (16:00～16:10)

□ 16:10～

一般演題 II

座長 山本 恵太郎

6. サッカー試合中の外傷・熱中症への対応～プレー続行不可であった症例の検討～
野崎東病院 デイケアふれあい 宮本 浩幸、ほか
7. 体外衝撃波を用いたアキレス腱炎の治療成績
宮崎大学医学部 整形外科 河原 勝博、ほか
8. 宮崎県少年野球検診に関する報告 -子供に笑顔を、野球傷害を防ごう-
宮崎江南病院 整形外科 長澤 誠、ほか
9. 長期出張を伴うスポーツ帯同医の光と影～勤務病院の損失について～
橘病院 整形外科 小島 岳史、ほか

■ 16:50～17:05 総会

□ 17:05～

一般演題 III

座長 川添 浩史

10. アマチュアボクシング 25年間のメディカルサポートの経験 -現状の問題点-
獅子目整形外科病院 獅子目 賢一郎、ほか
11. 脛骨顆間隆起剥離骨折後に発生した膝蓋骨上極 sleeve fracture の治療経験
獅子目整形外科病院 樋口 潤一、ほか
12. 足関節スポーツ傷害に対する鏡視下手術の小経験
藤元早鈴病院 整形外科 園田 典生、ほか
13. 当院での足関節鏡視下手術
宮崎大学医学部 整形外科 山口 奈美、ほか

— 休憩 — (17:45～18:00)

■ 18:00～19:00 特別講演

座長 帖佐 悦男

「足関節・足部のスポーツ傷害 ～関節鏡視下手術例を中心に～」

奈良県立奈良病院

副院長 杉本 和也 先生

開 会 会長挨拶 (15:00)

一般演題 I (15:10～)

座長 宮崎 茂明

1. 全国高校ラグビー大会県代表チームへのメディカルサポート

野崎東病院 アスレティックリハビリテーションセンター ○吉行聡美 (よしゆき さとみ)
小玉順規 落合錠 吉田暁生
宮崎大学 整形外科 田島卓也
藤元早鈴病院 整形外科 吉川大輔

今回、第92回全国高校ラグビー大会に出場する県代表チームに帯同しメディカルサポートを行ったので、その活動内容や今後の課題について報告する。

大会帯同期間は6日間で、選手37名に対しメディカルスタッフ3名(ドクター1名、トレーナー2名)でサポートを行った。大会帯同中はメディカルチェック、選手・スタッフの健康管理(体重計測・体温計測)、外傷・障害・疾病の治療を行った。

大会期間中、試合への出場が困難となるような外傷は発生しなかったが、発熱・感冒症状・嘔吐などの体調不良を訴える選手が数名出現したため、治療を行うとともに部屋の変更・隔離、練習への参加を見合わせることで対応した。

今後の課題としては、メディカルスタッフ間の連携を更に密にすること、大会期間中の宿泊先の環境面をより重点的にチェックすること、選手への感染予防・体調管理に関しての啓蒙・教育を更に徹底することが必要と考えられた。

2. 「中学生女子バスケットボール部へのコンディショニング指導について」 ～アシスタントコーチ、理学療法士の立場から～

橘病院 整形外科 リハビリテーション科 ○豊永梨紗 (とよなが りさ)
塩崎猛 上野成美
橘病院 整形外科 矢野良英 柏木輝行
小島岳史 花堂祥治
宮崎大学医学部 附属病院 整形外科 田島卓也

<はじめに>

2008年から中学生女子バスケットボール部にアシスタントコーチ、兼トレーナーとして帯同している。今回、宮崎県初の全国大会優勝を果たすことができたので、そのサポート内容を報告する。

<サポート内容>

コンディショニング指導としてストレッチ、障害予防トレーニング、栄養指導、体調管理、個別指導を行った。

最終目標を全国大会優勝(8月)とし1年前から年間スケジュールを作成し、サポート内容の充実を図った。

<結果>

平成24年、九州・全国大会優勝。年間の傷害件数は障害1件、外傷6件のうち2件は病院にて経過観察を行った。最終目標達成時の傷害件数は0件で大会に臨め、終わることができた。

<まとめ>

監督、保護者、生徒との信頼関係を築き協力体制が整ったこと、また病院との連携もありサポートしやすい環境で活動が行えた。

3. 高校女子テニス選手のメディカルチェックにおける身体特性の検討

宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 ○塚本信也 (つかもと しんや)
宮崎茂明 渡辺将成 鳥取部光司
宮崎大学医学部 整形外科 帖佐悦男

【はじめに】

当院では高校女子テニス選手へのメディカルチェックを実施している。今回、12名の選手を実施した。

また、昨年度と本年度での1年経過後の身体特性の違いについて比較検討を行った。

【対象と方法】

本年度メディカルチェックを実施した12名の選手と、そのうち昨年度との比較検討が可能な5名である。

測定項目は身体組成(身長・体重・BMI・体脂肪率)、筋柔軟性テスト、関節弛緩性テスト、パフォーマンステスト(体幹・下肢の筋力・無酸素パワー・背筋力・幅跳び・垂直跳び・ステップングテスト)とした。

【結果及び考察】

今回の結果、1年経過後に身体機能の向上を認めた点が明確となった。

また、今回のメディカルチェック実施の結果を年度別に集計し測定項目ごとに比較することで、高校女子テニス選手の今後の競技性向上に必要な要素が示唆された。

そして結果をグラフ化することで変化を視覚的に捉え今後の競技力向上へ向けてのアプローチの重要性を検討する。

4. 宮崎県エンジョイススポーツフェスティバル来場者のロコモと転倒リスクの実態

宮崎大学医学部看護学科 ○蒲原真澄 (かもはら ますみ)
塩満智子 鶴田来美 長谷川珠代 湯川裕美

宮崎県エンジョイススポーツフェスティバルは、宮崎県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会等が主催し、平成24年2月に開催された。内容は講演会やスポーツ体験等が行われ、子どもから高齢者までの約520名が参加した。来場者のうち20歳以上を対象に自己記入式質問紙調査を実施した。

対象は94名(男性41名、女性51名、未記入2名)、平均年齢±標準偏差は56.5±13.2歳(28~77歳)であった。日本整形外科学会が提唱しているロコモチェック7項目のうち1項目でも当てはまる場合、ロコモの疑い有といわれている。今回、ロコモ疑い有は34名(36.2%)であった。転倒リスクは13項目のチェックリストに1つでも該当した者は74名(78.7%)で、3つ以上該当した者は21名(22.3%)であった。チェックリストのうち、最も該当者が多かった項目は、「視力が落ちた」42名(44.7%)、次いで「靴の減り方が左右で違う」26名(27.7%)、「膝が痛い」24名(25.5%)の順であった。

5. ロコモ予防教室継続者の特徴と看護職による支援の検討

宮崎大学医学部看護学科 ○塩満智子（しおみつ ともこ） 蒲原真澄
鶴田来美 長谷川珠代 湯川裕美

宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 宮崎茂明

宮崎県内の総合型地域スポーツクラブにおけるロコモティブシンドローム予防教室（以下、ロコモ予防教室）に1年以上継続して参加している者の特徴を明らかにし、看護職による支援を検討することを目的とした。

2011年及び2012年のメディカルチェックを実施した5カ所のクラブを対象に、継続者と非継続者のベースライン値（2011年時の結果）を比較した。

対象は、継続者23名（男性3名、女性20名、平均年齢 65.2 ± 4.7 歳）、非継続者35名（男性8名、女性27名、平均年齢 58.7 ± 13.0 歳）で、継続者の年齢が有意に高く、性別による差はみられなかった。年代別にみると、30歳代、40歳代は全員非継続者で、60歳代の継続者はシャツのボタンの掛け外し動作を困難に感じている者が非継続者に比較して有意に多く、70歳代以上の継続者は、転倒回数が有意に少なかった。

今回、ロコモ予防教室の継続者の特徴として、60歳代以上が多いこと、教室開始時に上肢の動作にやや困難を感じている者が多いこと、転倒経験は少ないことが示唆された。看護職はメディカルチェック時に健康相談を行い、その情報を指導者である理学療法士に提供し、対象のロコモ予防教室への継続参加を支援していく必要がある。

■□■ 休 憩 ■□■

6. サッカー試合中の外傷・熱中症への対応
～プレー続行不可であった症例の検討～

野崎東病院	デイケアふれあい	○宮本浩幸 (みやもとひろゆき)
野崎東病院	アスレティックリハビリテーションセンター	菅原康史
	宮崎大学医学部附属病院 整形外科	日吉優 (MD)
	県立延岡病院 整形外科	永井琢哉 (MD)
	渡辺整形外科病院	樋口誠二 (MD)
	橋病院 整形外科	小島岳史 (MD)
	獅子目整形外科病院	樋口潤一 (MD)

サッカーの試合中、メディカルスタッフには、プレー続行の可否の迅速な判断・処置が求められる。ドクター不在時には、トレーナーが可能な限り対応しなければならない。

今回、JFL 所属チーム過去3年間の公式戦100試合の帯同記録から、プレー続行不可であった症例について報告する。

プレー続行不可だった症例は33件で、外傷部位は、①足関節・足部8件、②膝関節8件、③大腿部8件、④頭顔面部3件、⑤腹部1件、⑥腰椎・骨盤1件、それらに加え⑦熱中症（I度）4件であった。

これらに対して疾患別の検討を加えて報告したい。

7. 体外衝撃波を用いたアキレス腱炎の治療成績

宮崎大学医学部整形外科	○河原勝博 (かわはら かつひろ)
	帖佐悦男 田島卓也 山口奈美
獅子目整形外科病院	樋口潤一
社会保険宮崎江南病院	山本恵太郎

【はじめに】

今回、体外衝撃波を用いたアキレス腱炎の治療について報告する。

【対象および方法】

対象は2010年7月から2012年12月の間にアキレス腱周囲の症状に対して体外衝撃波治療を行った6例（男性5例、女性1例）である。平均年齢44.0歳（35-51歳）

治療方法は局所麻酔など用いず、痛みに応じて照射エネルギーを低～中程度で調整し、照射量はトータル500～1000mJとした。平均治療回数は4回（2-6回）であった。これらに対して症状の改善率、VASスコアの推移、有害事象について調査した。

【結果】

全例、症状の改善は認めた。VASスコアは初診時平均61.3点であり、最終診察時は平均18.0点であった。有害事象は治療後一定期間腫脹・疼痛を認めたが、その後改善を認めていた。

【考察】

これまでアキレス腱炎に対してはサポーターやストレッチなどの保存的治療が行われてきたが、今後、体外衝撃波も有効な治療方法の1つではないかと思われる。

8. 宮崎県少年野球検診に関する報告

—子どもに笑顔を、野球傷害を防ごう—

宮崎江南病院 整形外科 ○長澤誠 (ながさわ まこと)
宮崎大学医学部整形外科 石田康行 帖佐悦男

野球はわが国において国民的スポーツであり競技人口も多い。しかし華やかな栄光の陰に少年期の障害のために野球を続けることができなくなった子供たちがたくさんいることも残念ながら事実である。そんな子供たちを少しでも減らそうと、全国各地で諸先生方が野球検診を始め様々な努力をされている。我々も『子どもに笑顔を、野球傷害を防ごう』プロジェクトを立ち上げ、その一環として2010年より現行の形として宮崎県少年野球選手を対象に野球検診を行っている。これに関し報告する。

【方法及び結果】

まず事前に選手全員に野球歴・ポジション・練習日数、時間・痛みの有無などに関してアンケートを行った。次に、一次検診を検診場所（医療機関）にて実施した。その際、肘のエコー検査も全員に行った。診察・エコーで異常を認め、二次検診が必要と診断した選手にその場で二次検診を行った。我々は一次検診を病院で行い、そのまま同日二次検診まで行う方法を宮崎式野球検診と命名し行っている。

2010年度は218名が受診二次検診受診者は38名で6名に小頭障害(離断性骨軟骨炎)を2011年度は330名が受診二次検診受診者は72名で12名に小頭障害を認めた。

2012年度は12月16日に実施予定である。

【考察】

宮崎式野球検診は高い二次検診受診率を得られ、他覚所見や画像所見の比較も可能であった。欠点は、多くの選手に実施できていない事などがある。今後継続して行っていくことで野球障害を防ぎ、子供たちが笑顔で大好きな野球を続けることができる一助となれば幸いである。

9. 長期出張を伴うスポーツ帯同医の光と影 ～勤務病院の損失について～

橘病院 整形外科 ○小島岳史 (こじま たけし) 柏木輝行
花堂祥治 矢野良英
国立病院機構都城病院 吉川教恵
宮崎大学医学部 整形外科 中村嘉宏 田島卓也 帖佐悦男

当院では1999年よりラグビー日本代表・空手・U14・U18・U19 サッカー日本代表に帯同医を積極的に派遣してきた。代表チーム帯同などはスポーツドクターとしては華々しい活躍の場所ではあるが、長期出張を伴うため、勤務病院は負担（経済的負担・他医師に対する負担）を強いられてしまう。現在まで、帯同医の光の部分の報告がほとんどで、影（出張中のバックアップ体制・主治医と患者の信頼関係の中断・同僚、医局への負担など）の部分の報告はない。今回、スポーツ帯同に関する長期出張における勤務病院の損失について調査した。

いかなる損失があっても、「選手をサポートしたい」というスポーツドクターの熱意と意欲をしっかりと支える病院、医局の体制が不可欠である。

総会 (16:50～17:00)

13. 当院での足関節鏡視下手術

宮崎大学医学部 整形外科 ○山口奈美(やまぐち なみ) 大塚記史
中村志保子 大田智美 村上恵美 田島卓也
河原勝博 石田康行 矢野浩明 帖佐悦男

膝関節鏡をはじめとする鏡視下手術の普及・確立によって、その適応症例は拡大してきている。今回われわれは、当院で行った足関節鏡視下手術について調査したので報告する。対象は、2008年1月~2012年12月に当院で足関節鏡視下手術を行った24例24足とした。男性10例、女性14例で、手術時平均年齢は32.1歳(14~72歳)であった。疾患の内訳は、距骨骨軟骨損傷7例、骨性インピンジメント症候群7例、軟部インピンジメント症候群3例、変形性足関節症6例、腫瘍1例であった。鏡視下手術が有用であった症例、また治療に難渋した症例を提示し、鏡視下手術の適応や課題について検討した。

■□■ 休 憩 ■□■

特別講演 (18:00~19:00)

座長 帖佐 悦男

「足関節・足部のスポーツ傷害 ～関節鏡視下手術例を中心に～」
奈良県立奈良病院
副院長 杉本 和也 先生

閉 会

第 49 回宮崎県スポーツ学会 プ ロ グ ラ ム

日 時：平成 25 年 10 月 12 日（土）15:00～18:30

場 所：宮崎県医師会館（2 階）

宮崎市和知川原 1-101 TEL 0985-22-5118

会 長：帖佐 悦男

※14:30～ 受付開始

非会員 参加費

医 師	1,000 円
メディカルスタッフ・一般	500 円
学 生	無 料

世話人会のお知らせ

14:30～14:50

研修室 4（5 階）

会員 年会費・参加費

医 師	2,000 円
メディカルスタッフ	1,000 円
施設会員	無料（施設会員費に含）

宮崎県スポーツ学会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ学会・宮崎県整形外科医会・久光製薬株式会社

後援：宮崎県医師会

15:00開 会

▶15:00～16:00 特別講演Ⅰ

座長：宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 宮崎茂明

「超音波を用いた運動器の機能解剖学的評価」

中部学院大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

教授 林 典雄 先生

▶16:10～17:10 特別講演Ⅱ

座長：獅子目整形外科 樋口潤一

「女性アスリートは誰が診るか？～スポーツ医でしょ！

(女性アスリートのスポーツ医学)」

独立行政法人 国立病院機構 西別府病院

スポーツ医学センター長 松田 貴雄 先生

17:10～17:20 -総会-

▶17:30～18:30 特別講演Ⅲ

座長：宮崎大学整形外科 帖佐悦男

「膝のスポーツ損傷」

埼玉医科大学総合医療センター 整形外科

教授 酒井 宏哉 先生

19:00 閉 会

【特別講演Ⅰ～Ⅲ 認定単位】

◆日本整形外科学会教育研修会 受講料は各1,000円。

3単位認定（専門医またはスポーツ医／運動器リハビリテーション医）

※認定番号 I：13-1825-01 必須分野 [01 13] / 運動器リハビリテーション医

II：13-1825-02 " [04 02] / スポーツ医

III：13-1825-03 " [02 12] / スポーツ医

◆日本医師会生涯教育講座：3単位認定 受講料は無料

◆健康スポーツ医学再研修会：3単位認定 受講料は無料

◇運動器リハビリテーションセラピスト：3単位認定 受講料は3,000円（全講演受講必須・要認定証番号）

◇健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義2単位が認められます。（認定番号136541）健康運動指導士証/健康運動実践指導者証を受講終了後受付に提出して下さい。証明書に押印します。受講料は1,000円（全講演受講必須）

第 50 回宮崎県スポーツ学会 プログラム

日 時：平成 26 年 3 月 9 日（日） 11:00～15:00

場 所：宮崎観光ホテル（東館 3 階）

宮崎県宮崎市松山 1-1-1 TEL 0985-27-1212

会 長：帖佐 悦男

※10:30～ 受付開始

参加費

医 師	2,000 円
メディカルスタッフ・一般	1,000 円
学 生	無 料

世話人会のお知らせ

10:30～10:50

（東館 2 階）

会員 年会費

医 師	2,000 円
メディカルスタッフ	1,000 円
施設会員	無料（施設会員費に含）

宮崎県スポーツ学会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ学会・宮崎県整形外科医会

後援：宮崎県医師会

▶ 11:00～12:00 記念講演 座長：宮崎大学整形外科 帖佐悦男

「我国におけるスポーツ -歴史と展望-」

宮崎大学 医学部

名誉教授 田島 直也 先生

▶ 12:10～12:40 記念式典

I. これまでのあゆみ ～宮崎県スポーツ学会事務局作成～

II. 功労賞贈呈

▶ 13:00～15:00 記念祝賀会

※記念祝賀会においてはお食事をご用意させていただきます。(立食形式)

【特別講演 認定単位】

- ◆ 日本整形外科学会教育研修会 受講料は1,000円
1単位認定(専門医またはスポーツ医)
※認定番号：13-3438-00 必須分野 [02 14] /スポーツ医
- ◆ 日本医師会生涯教育講座：1単位認定 受講料は無料
- ◆ 健康スポーツ医学再研修会：1単位認定 受講料は無料
- ◇ 運動器リハビリテーションセラピスト：1単位認定 受講料は1,000円(要認定証番号)
- ◇ 健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として講義
1単位が認められます。(認定番号136797) 健康運動指導士証/健康運動実践指導者証
を受講終了後受付に提出して下さい。証明書に押印します。受講料は500円